

## ヒアリ（*Solenopsis invicata*）の国内初確認について

特定外来生物に指定されている「ヒアリ」については、これまで日本に定着していませんでしたが、去る5月26日に兵庫県尼崎市において、中国・広東省広州市からの輸入コンテナの内部で、国内で初めて「ヒアリ」が発見されたことを受け、当該コンテナが一時的に保管されていた神戸港を調査した結果、約100匹の「ヒアリ」を確認したことが6月18日に発表されました。

ヒアリは攻撃性が強く、刺された場合、体質によってはアナフィラキシー・ショックを起こす可能性があるなど人体にとって危険な生物であること、一旦定着すれば根絶することが困難になることから、本市は特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき早期発見、駆除に努めることとしています。

このことから、海外からの貨物等が到着する港周辺においては、神戸港と同様にヒアリ侵入のリスクがあるため、本市では6月20日に、海外からの貨物などを扱う市内の物流・運送業者など約30社に対し点検するよう要請しました。

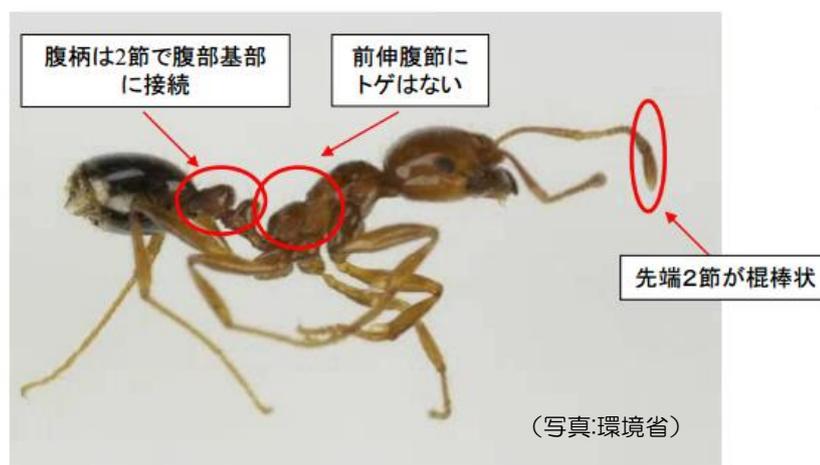
また、大分県も同日に、大分、別府、中津の3港を調査したところ、ヒアリは確認されず、他の県内15港においても緊急点検する予定です。今後も、当該生物の動向について注視することから、ヒアリと思われる個体が発見された場合は、環境対策課へ連絡をお願いいたします。

### 【参考資料】

#### 1. 生態について（写真1）

原産地：南米、日本での定着状況：国内未定着、亜熱帯～暖温帯に生息し、草地など比較的開けた環境を好む。土で直径25～60cm、高さ15～50cmのドーム状のアリ塚（写真2）を作る（土で大きなアリ塚を作るアリは日本の在来種にはいません）。雑食性で、節足動物、小型脊椎動物、樹液花蜜などを餌とする。

（写真1）



体長2.5～6mm。全体的に赤茶色で、腹部は濃い赤色で黒っぽく見える。頭部は褐色。頭部頭盾の歯は3本。触角は10節で先端2節は棍棒状。腹柄は2節で腹部の基部に接続する。前伸腹節にトゲを持たない。複眼は15個以上の個眼で構成される。働きアリは大型のものでも巨頭化しない。

(写真2)



## 2. 懸念される影響

- (1) 生態系にかかわる影響：他種のアリと競合し駆逐するおそれがある。極めて攻撃的で、節足動物のほか爬虫類、小型哺乳類をも集団で攻撃し捕食することが知られ、鳥類の営巣・雛の生育に影響を及ぼした例もある。
- (2) 農林水産業にかかわる影響：牛、馬、鶏など家畜への死傷被害
- (3) 人体に関わる被害：刺されると、アルカロイド系の強い毒による痛みやかゆみ、発熱、じんましん、激しい動悸等の症状が引き起こされる。アレルギー性のショックで昏睡状態に陥ることもあります。

※貨物等に紛れて気付かないうちに持ち込まれ、中国や台湾など環太平洋諸国に分布が急速に広がっています。

